

[解答]

ア 「グリーンストーン帯」が入る 太古代の特徴は花崗岩・片麻岩地域（広域変成帯）とグリーンストーン帯という 2つの岩石の分布である。なお「チャート」は生物由来の地層である。

イ 「コマチアイト」が入る コマチアイトとは、 MgO を相当多量に含む火成岩である。玄武岩よりも高温の条件下でできる。これは現在の地球では新しくつくられることはなく、太古代のマントルが今よりも高温であったことの証拠となっている。「デイサイト」は、安山岩と流紋岩の中間の岩石である（なお、玄武岩寄りが塩基性岩、流紋岩寄りが酸性岩となる）。

ウ 「広域変成帯」が入る アに記した通りである。なお、岩塩は海水由来でできる。（したがって造山帯中核にはできにくいのでは）

エ 「縞状鉄鉱層」が入る 縞状鉄鉱層の分布は、原生代の大きな特徴である。この層は、鉄が酸化されて堆積してできるが、この時期にこの層が特徴的に分布することは、原生代の海水に酸素が現れたことを示し、これは光合成生物がこの時期に発生したことを示している。

→肢2

[ポイント]

チャートが生物由来である、という中学レベルの知識があるだけで2択に絞ることができる問題です。残りはイまたはエで絞ればよいのですが・・・No.9 もヒントになるのかなあ。